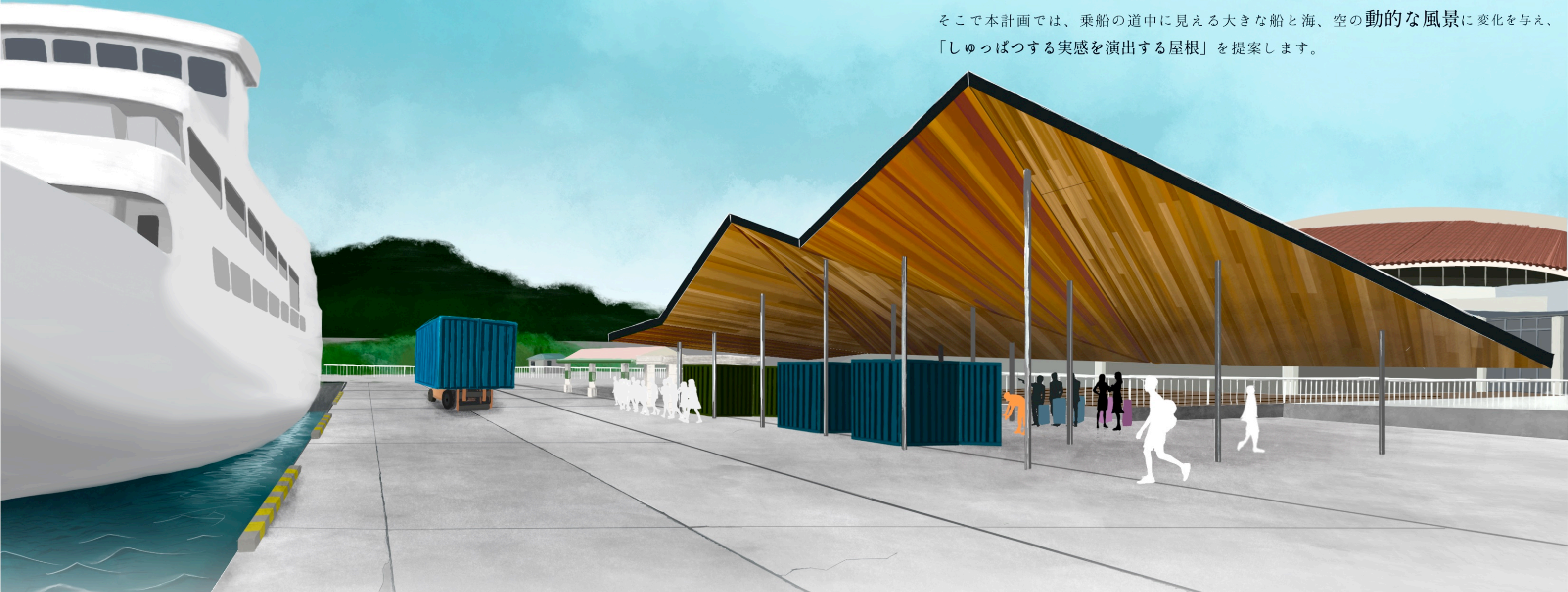


『しゅっぱつする実感を演出する屋根』

今回の敷地は、伊江島と本島を結ぶ本部港。港からは海の向こう側の瀬底島まで見渡せ、計画敷地の北側には大きな船が停泊します。計画施設の用途は主に修学旅行生や旅行者が雨風を凌ぎつつ、コンテナからの荷捌き、荷捌き中の待機スペースです。

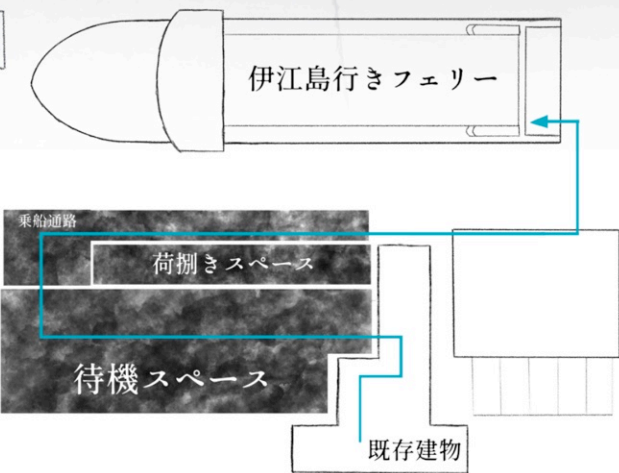
荷捌きから待機・乗船までの過程で利用者の『今から出港する』という期待感、ワクワク感をより演出するという付加価値を施設に与えることで、利用者の旅をさらに楽しく出来るのではないかと考えました。

そこで本計画では、乗船の道中に見える大きな船と海、空の動的な風景に変化を与え、「しゅっぱつする実感を演出する屋根」を提案します。



歩きながらの眺めに流れを作る。

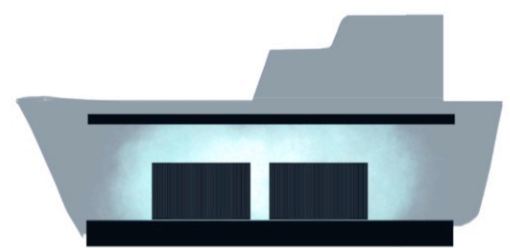
利用者は既存施設から荷捌きをして、乗船します。



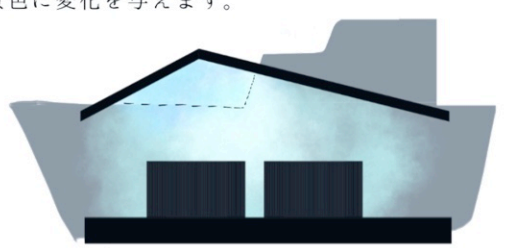
荷捌きをし乗船する道中、屋根下の各ゾーンから見える船と海、空の眺めに徐々に変化を付けていきます。歩き進むにつれ、徐々に船の先端と空海が見え始め、「今から出航する」と言う高揚感を抱くよう屋根とコンテナのスキマを徐々に開きます。

屋根を折り曲げ、変化を生み出す。

雨風をしのぎながらの作業時の最低有効高さを3.7mとすると、屋根とコンテナのスキマの景色が船の側面のみとなり単調な景色となります。

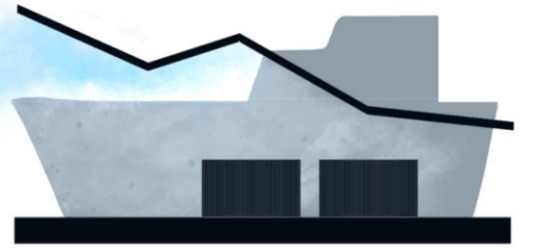


船の全体と空がまばらに見えるよう、屋根を折り曲げます。屋根勾配による目線の誘導と、徐々に開けていくスキマで移動に伴って見える景色に変化を与えます。



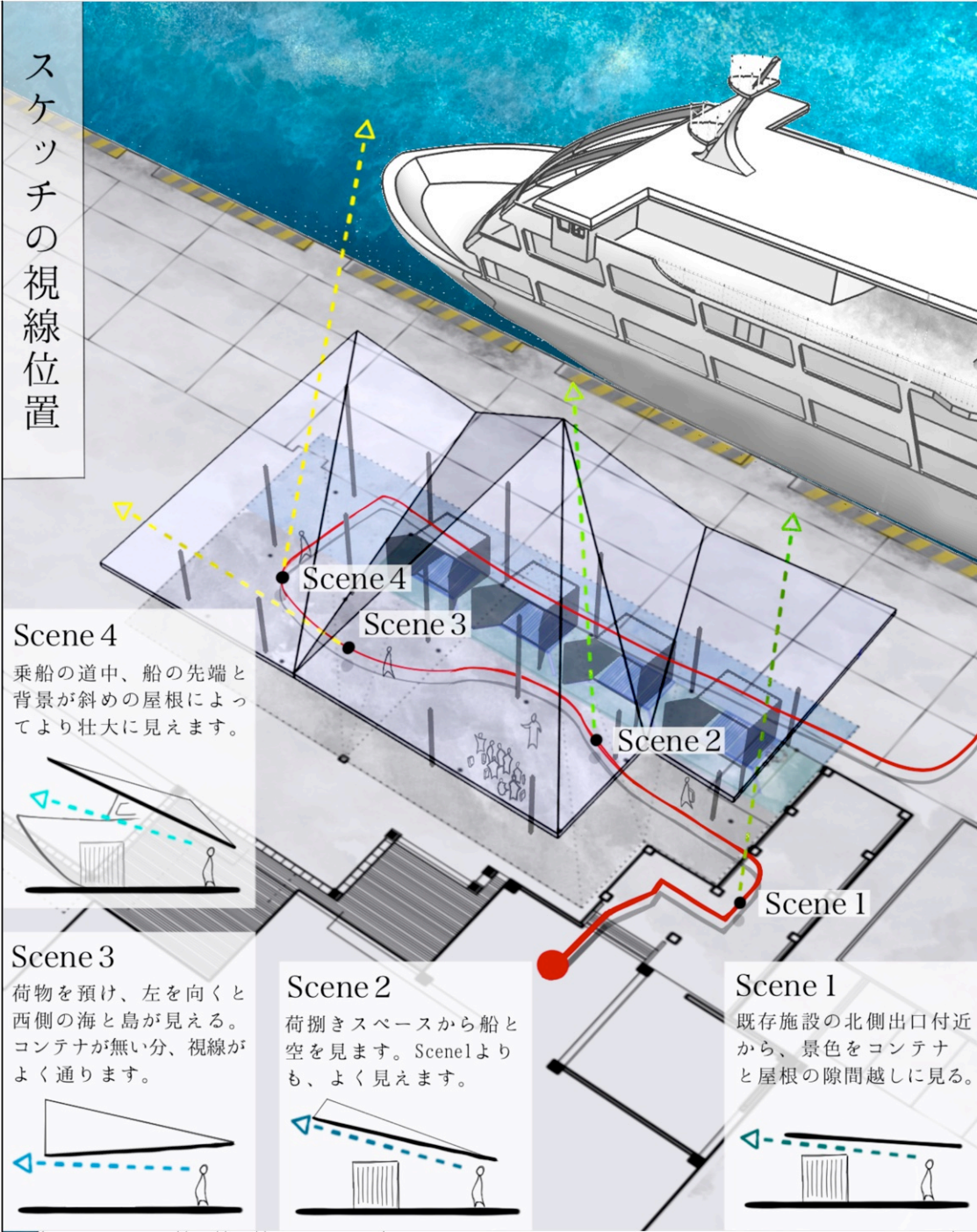
移動中に見える眺めに変化を付けていく。

施設を利用する動線の中でスキマをつなぎながら、見える景色に強弱をつけます。かつ船の先端にかけて徐々に屋根のレベルを上げスキマを開かしていくことによって高揚感を出し施設にストーリー性を出します。

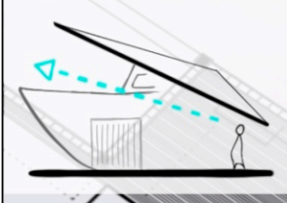


具体的にどんな体験ができるか

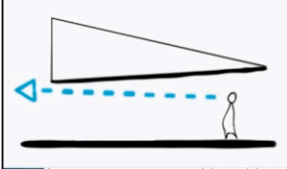
スケッチの視線位置



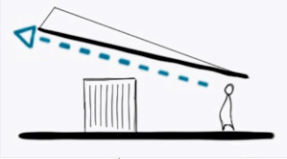
Scene 4
乗船の道中、船の先端と背景が斜めの屋根によってより壮大に見えます。



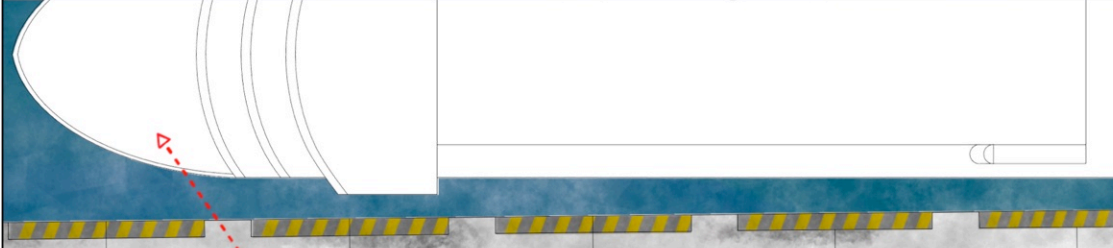
Scene 3
荷物を預け、左を向くと西側の海と島が見える。コンテナが無い分、視線がよく通ります。



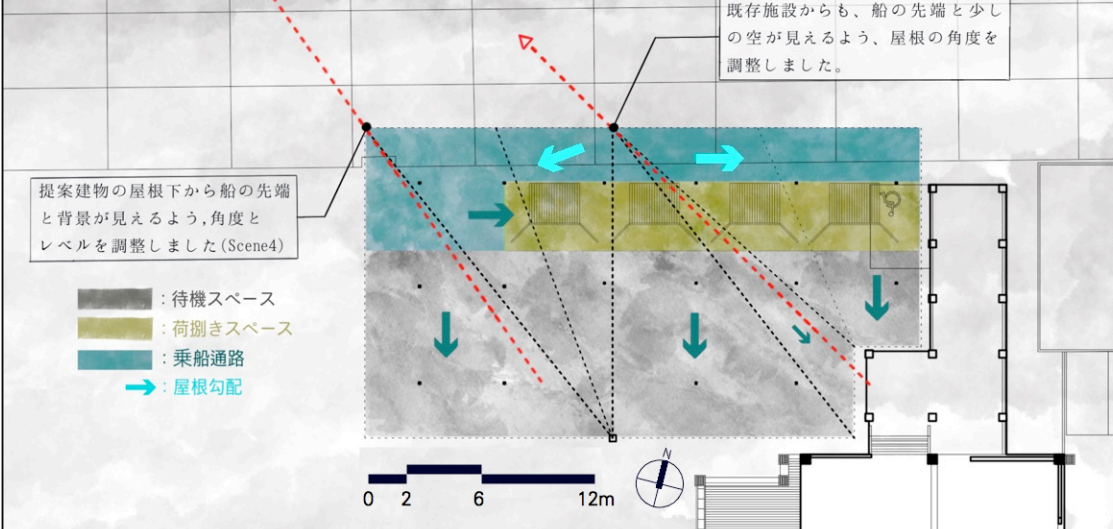
Scene 2
荷捌きスペースから船と空を見ます。Scene1よりも、よく見えます。



Scene 1
既存施設の北側出口付近から、景色をコンテナと屋根の隙間越しに見る。



屋根伏図 1/400



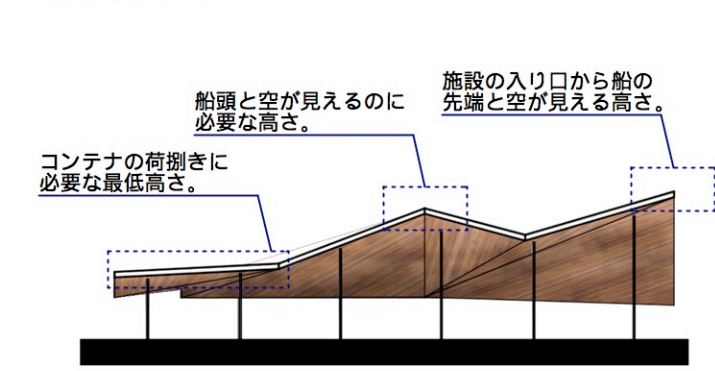
Scene 1
乗船手続きが終わり既存施設から荷物を預けるために、荷捌きスペースに移動する。その時コンテナと屋根の隙間から船の存在を認識したが、一部だけしか見えずまだ全容は把握できなかった。

Scene 2
荷捌きの待機中列の中で友人と会話をしながら何気なく視線を泳がせていると天井と天井が交わる継ぎ目によって視線が導かれその先にある船頭と少しの空が見えた。船の意外な大きさに、乗船する期待がより高まってきた。

Scene 3
荷物を預け終わり施設の奥に進むと、目の前の視界が開け向こう岸の島と海と空の眺望が飛び込んでくる。今までコンテナと船の側面で、よく海が見えなかったが、海の向こう岸まで見え開放的だった。

Scene 4
海の大きさに見とれていたが、コンテナの列を抜け船に乗るため進んでいくと船の先端と海が空に向かって折れ曲がった屋根によって船が今にも動き出しそうに見えた。早く船に乗り込みたいと思い、少し早く歩いた。

■北側立面図 1/400



・柱スパンはコンテナの作業に必要な6m。

■木造の理由

薄い大屋根のひとつつながりの木造ボリュームは、これまでに無い新しい空間となります。木は誰もが身近に感じられる素材であると同時に、建物に暖かみを与えます。

■CLT(直交集成板)



CLT類似建物

CLTの活用は徐々に成熟しつつあり、CLTの長所を生かした使い方の一つとして2方向の強度を見込める大判の面材としての活用があります。本計画施設では柱などは鉄骨造で、屋根にCLTを使うハイブリット構造を採用しました。

■構造計画

構造種別：木造CLT(屋根)+鉄骨(柱)
屋根をCLTの折板屋根とすることにより、剛性の高い梁とみなすことができ、6mの柱スパンを確保しました。

■コスト面

CLTを採用することで梁、桁なしの架構とすることができ、躯体重量を軽減し、コストカットを図りました。部材は全て工場で製作することで、工期の短縮、工数の削減を図り、コストに配慮しました。

■維持管理

架構がシンプルな構成になり、点検作業がしやすく、安全な空間とすることができます。

RC、S造よりも塩害による腐食現象に強い木造を採用することにより、ライフサイクルコストに配慮しました。

■便利施設の設計概要

| | | | |
|------|----------|---------|----------|
| 建築面積 | : 598.4㎡ | 待機スペース | : 355.2㎡ |
| 最高高さ | : 8.8m | 荷捌きスペース | : 100.0㎡ |
| | | 乗船通路 | : 143.2㎡ |